

＜バイオ医薬・リサーチ・レポート＞

バイオ医薬・株式市場ニュースレター

■ 市場レビュー

2026年1月、先進国株式は上昇した。バイオ医薬セクターの銘柄群は先進国株式全体に近い上昇となり、先進国の大型ヘルスケアセクターを上回った。臨床試験結果がポジティブとなった企業としては、リンパ腫での米インサイト（INCY）、悪性黒色腫での米モデルナ（MRNA）、筋ジストロフィーに対する米コーバス・ファーマシューティカルズ（CRVS）などが挙げられる。

一方、ネガティブまたは微妙な報告をした企業としては、免疫の異常により全身に様々な慢性炎症性症状が現れるIgG4関連疾患での米ゼナス・バイオファーマ（ZBIO）、慢性特発性蕁麻疹での米ジャスパー・セラピューティクス（JSPR）、すい臓がん領域での米イミュニーリング（IMRX）があった。

規制関連ニュースでは、米フォートレス・バイオテック（FBIO）のメンケス病（深刻な銅欠乏状態になる遺伝性疾患）に対するZycubo、および英テンポイント・セラピューティクス（非上場）の老眼向け点眼薬Yuvezziが米国食品药品局（FDA）からの承認を取得した。

FDAは消化管間質腫瘍（GIST）に対するコージエント・バイオサイエンシズ（COGT）のbezuclastinibにブレークスルー（画期的）治療指定を付与、α1-アンチトリプシン欠損症に対する米ビーム・セラピューティクス（BEAM）のBEAM-302への迅速承認手続きを整えた一方で、米トラヴィア・セラピューティクス（TVTX）の巣状分節性糸球体硬化症（FSGS）という腎臓の難病に対する審査期限を3か月延長した。

i シェアーズ・バイオテクノロジーETFの価格推移（2019/12末～2026/1末）



（出所）ブルームバーグのデータを基にキャピタル アセットマネジメントが作成

1月のM&A（企業の合併や買収）活動としては、英グラクソ・スミスクライン（GSK）による食物アレルギー治療に注力する米RAPTセラピューティクス（RAPT）の買収（約22億米ドル、65%のプレミアム）、米イーライリリー

＜免責事項＞

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

＜バイオ医薬・リサーチ・レポート＞

(LLY)による炎症性疾患に対する経口治療薬候補を開発している米ベンティックス・バイオサイエンシズ(VTYX)の買収(約22億米ドル、39%のプレミアム)が挙げられる。

■パフォーマンス分析

1月のリターン上位		1月のリターン下位	
ベンティックス (+54%)	イーライリリーによる約22億米ドルでの買収	タルサス (-21%)	2025年第4四半期の新薬売上と2026年ガイダンスへの懸念
ビオンテック (+19%)	新薬に関する複数の好材料発生への期待・投資家心理改善	アルナライム (-15%)	Amvuttraという新薬の2025年第4四半期売上が期待外れ
ギリアド (+16%)	HIV感染予防薬・Yeztugoの処方せんの強いトレンド	インスマッド (-10%)	慢性副鼻腔炎に対するフェーズ2b臨床試験の失敗が尾を引く

(出所)セクトラルアセットマネジメント資料に基づき当社が作成

■企業ハイライト：ビオンテック(BNTX)

BNTXは、新型コロナウイルスワクチン開発のリーダーからがん治療のリーダーへと移行する中で、がん治療領域における多様な新薬候補品を開発している。

BNTXがブリストルマイヤーズスクイブ(BMY)と共同開発しているpumitamigは、2025年に250億米ドルの全世界売上高を達成したと推察される米メルクのKeytrudaに対抗すべく設計された、作用機序カテゴリー内で最高となる可能性を秘めた開発品である。同様の免疫チェックポイント阻害作用を有しながら、抗VEGF活性を加えることで血管新生(腫瘍の成長を促進する新しい血管の形成)をも阻害する。BNTXは現在、pumitamigに関して3つのフェーズ3臨床試験を実施中であり、数十億米ドル規模の商業化のポテンシャルがある。さらに、複数のがん治療候補品資産と組み合わせて、次世代のがん治療の流れを創出することを目指したフェーズ1/2臨床試験も実施中である。

2026年、同社によるがん治療候補品の臨床試験遂行により、さらなる株主価値の創出が見込まれる。

当資料は、世界バイオ医薬株式ファンドのアドバイザーであるセクトラルアセットマネジメントによる英語版ニュースレターに基づきキャピタルアセットマネジメントが翻訳作成したものです。権利上の都合などにより、省略または改変した部分があります。原資料にご興味があれば、当社マーケティング本部(marketing@capital-am.co.jp)までお問合せください。

以上

＜免責事項＞

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社(CAM)が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。